

# 欧州景気概況(2023年5月)

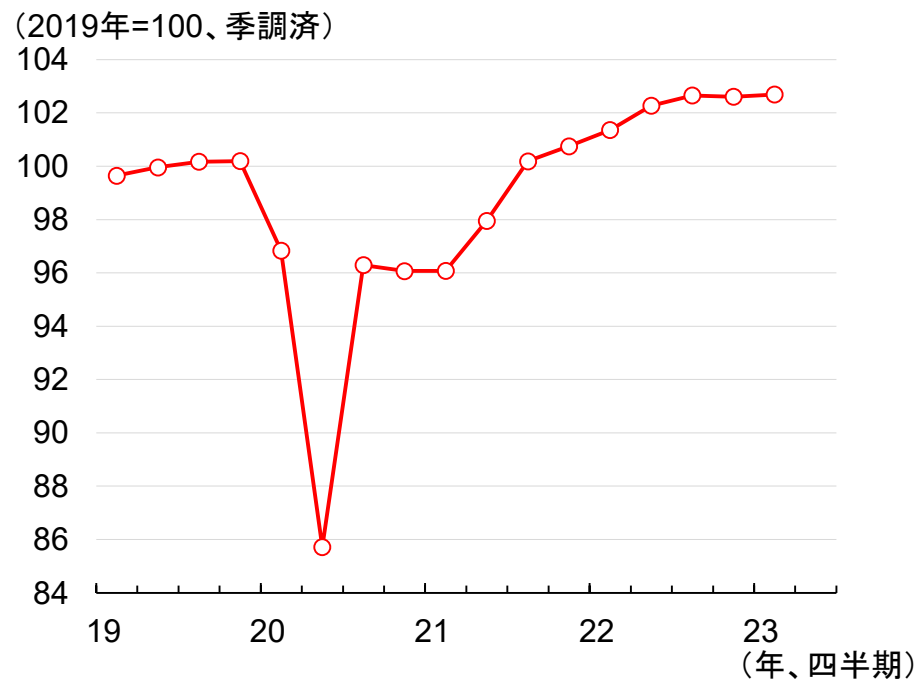
2023年5月9日

調査部 副主任研究員 土田陽介

## ユーロ圏景気概況① 景気は足踏みしている

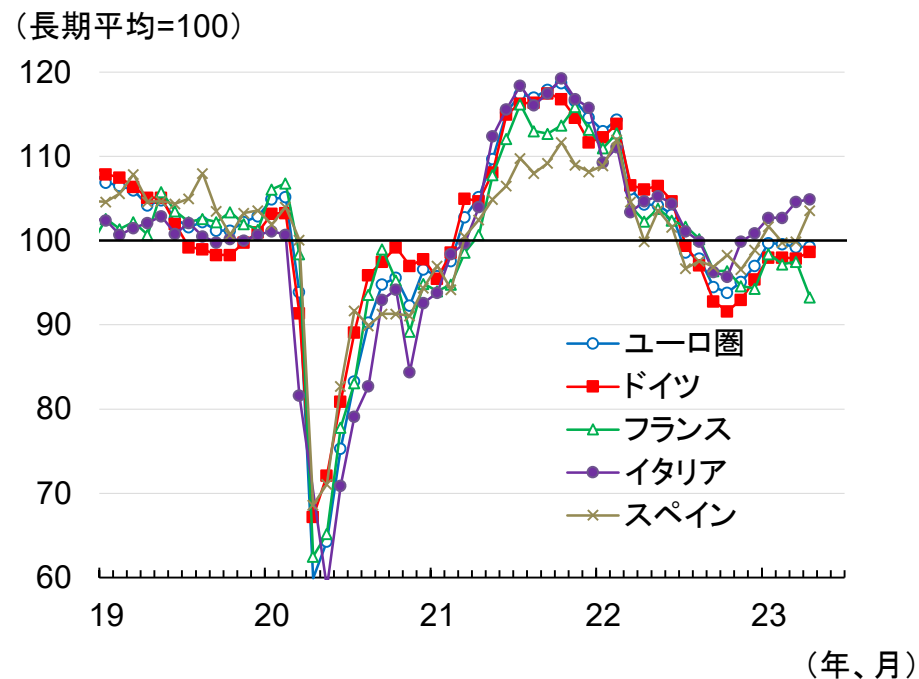
ユーロ圏の1-3月期の実質GDP(速報値)は前期比+0.1%とほぼ横ばい。一方で、景気の方角を示す景況感指数は、最新4月が99.3と前月(99.2)から小幅ながら上昇も、横ばい圏での推移が続いた。

### 実質GDP



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

### 景況感指数

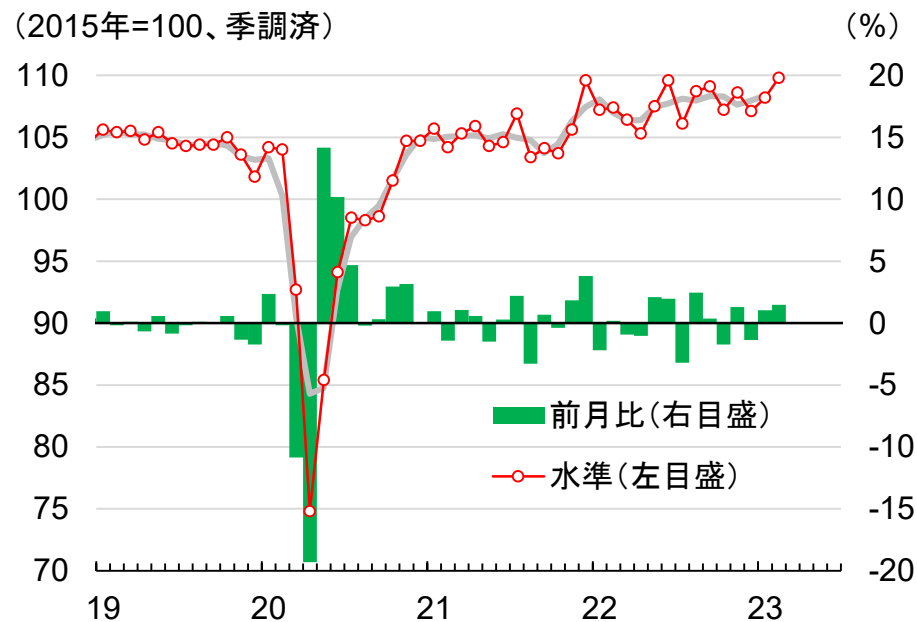


(出所) 欧州委員会ECFIN

## ユーロ圏景気概況② 生産は増加

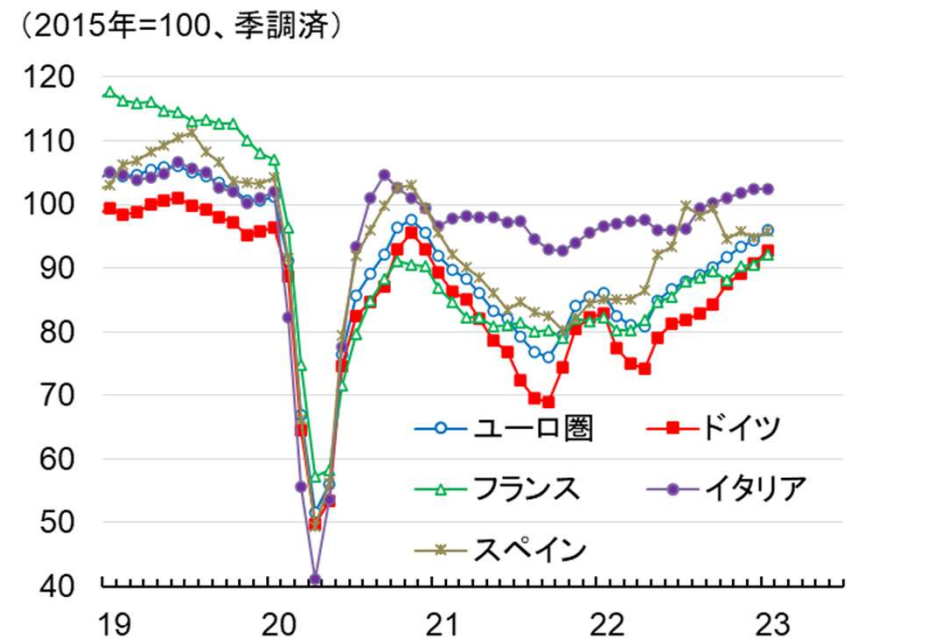
ユーロ圏の2月の鉱工業生産は前月比+1.5%と1月(同+1.0%)から増勢が加速、均した動きも上向き。うち自動車の生産は、スペインが下振れし、イタリアは頭打ちとなったが、ドイツとフランスでは回復が続いた。

### 鉱工業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) ユーロスタット

### 自動車生産台数(鉱工業生産ベース)



(注) 3ヶ月後方移動平均  
(出所) ユーロスタット

## ユーロ圏景気概況③ 消費は悪化

ユーロ圏の3月の小売数量は前月比▲1.2%と2ヶ月連続で減少し、均した動きは下向き。一方で、同月の新車販売台数は前月比▲0.9%の年率874万台と再び減少し、均した動きも下向き。ドイツで電動車の購入補助金が縮小されたことや金利高が進んだことなどで、市場の回復が一服した模様。

### 小売数量



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) ユーロスタット (年、月)

### 新車販売台数

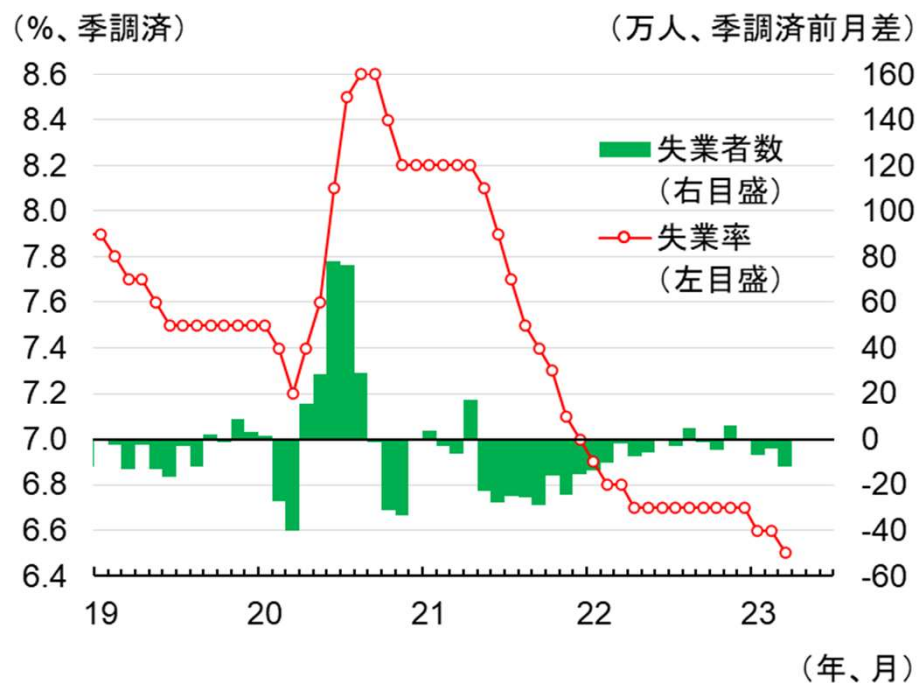


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) 欧州中央銀行 (ECB) (年、月)

## ユーロ圏景気概況④ 雇用は改善が進む

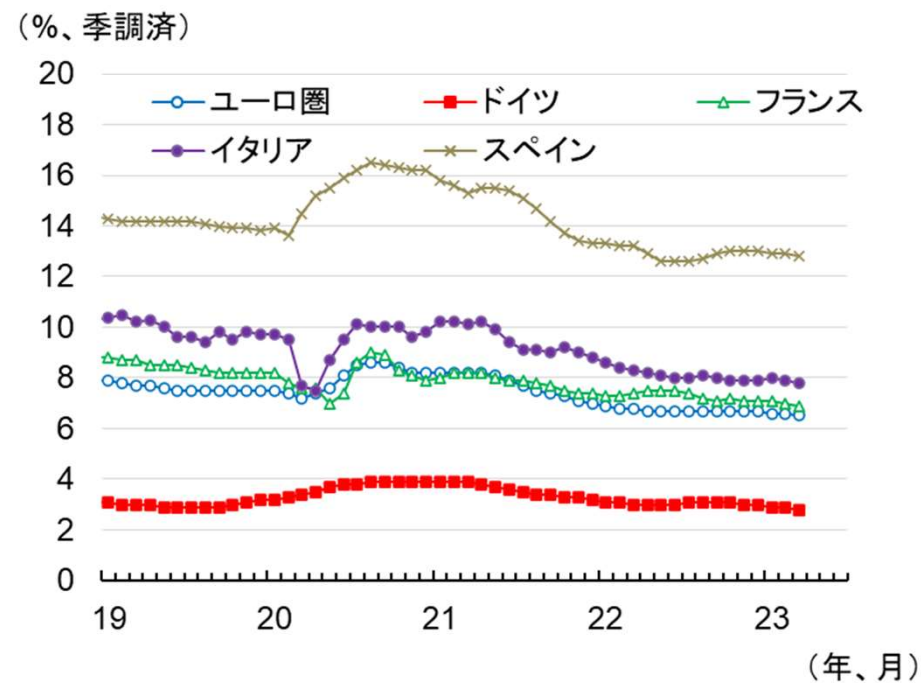
ユーロ圏の3月の失業率は6.5%と3ヶ月ぶりに低下し、失業者数も前月比11.9万人減と減少幅が再び拡大するなど、雇用は改善が進んだ。主要国別に失業率を見ると、各国ともわずかな低下か横ばいにとどまっている。

### 失業率と失業者数



(出所)ユーロスタット

### 主要国別失業率

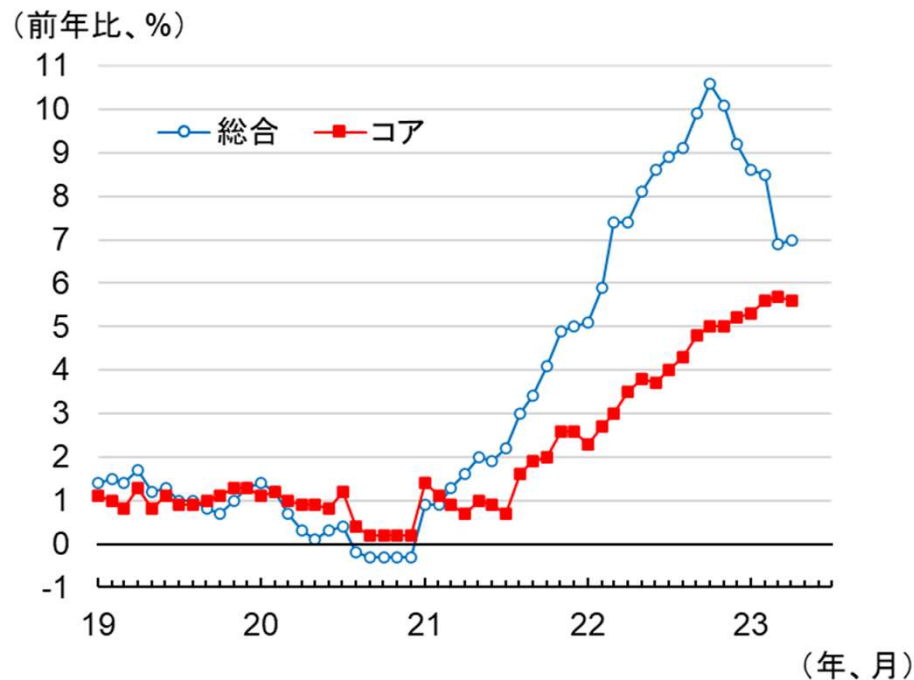


(出所)ユーロスタット

## ユーロ圏景気概況⑤ インフレは鈍化

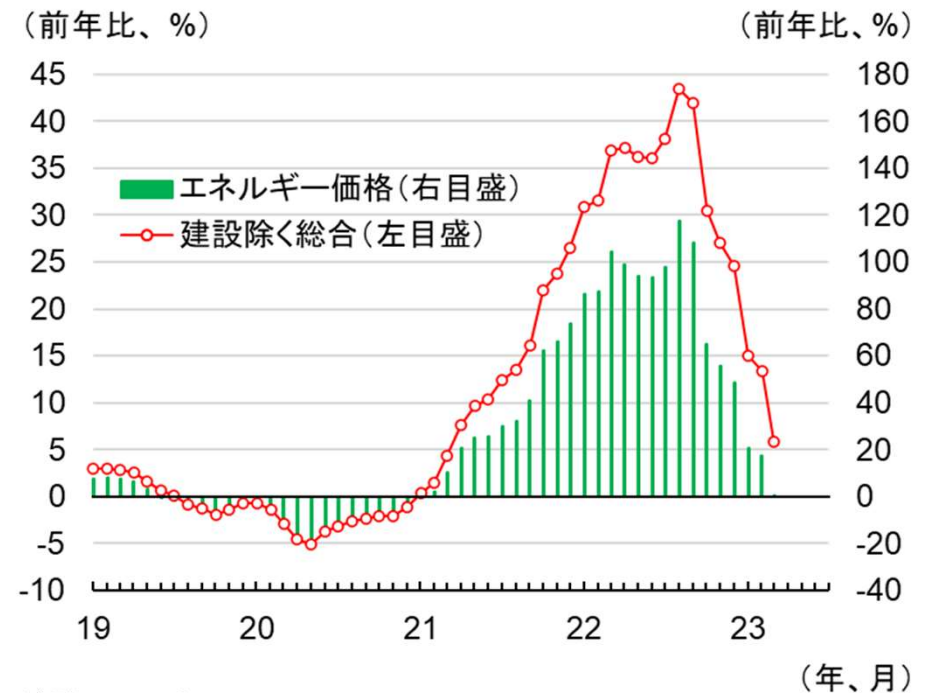
ユーロ圏の4月の消費者物価(速報値)は総合ベースで前年比+7.0%と、前月(同+6.9%)から横ばい。変動が激しい項目を除いたコアベースでも同+5.6%と、前月(同+5.7%)から横ばいとなった。一方、生産者物価(建設除く総合)は3月時点で前年比+5.9%と、7ヶ月連続で上昇が減速した。

### 消費者物価



(出所)ユーロスタット

### 生産者物価

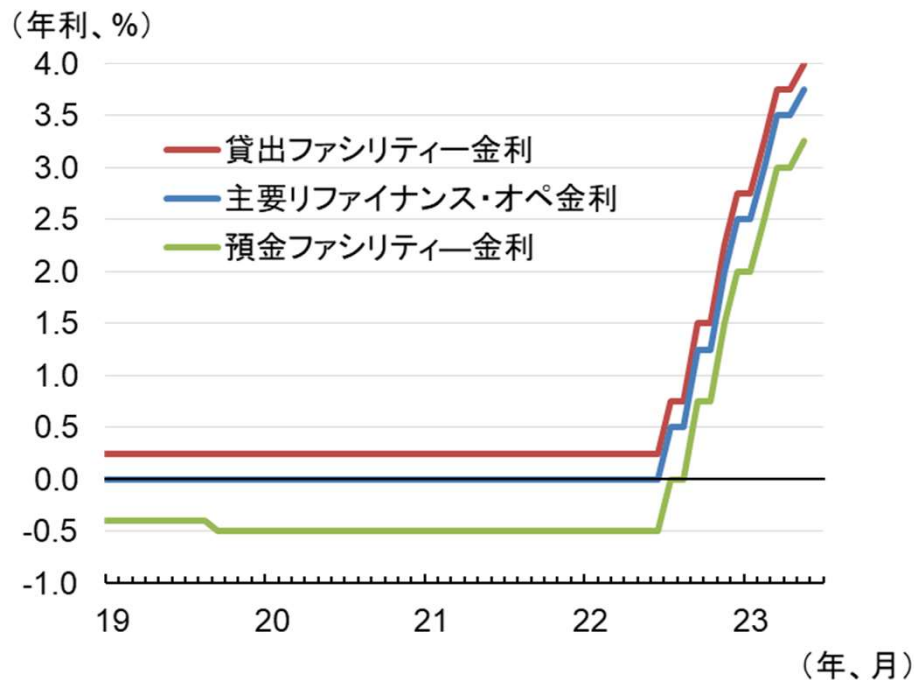


(出所)ユーロスタット

## ユーロ圏景気概況⑥ ECBは5月理事会で追加利上げを実施

欧州中央銀行(ECB)は5月4日に定例の政策理事会を開催、政策金利をそれぞれ0.25%引き上げた。またECBは、資産購入プログラムで買い入れてきた金融資産の再投資を3月から6月まで月額150億ユーロずつ削減するが、その後は再投資そのものを停止すると発表した。次回理事会は6月15日を予定。

ECBの政策金利



(出所) 欧州中央銀行(ECB)

5月理事会での決定内容の概要

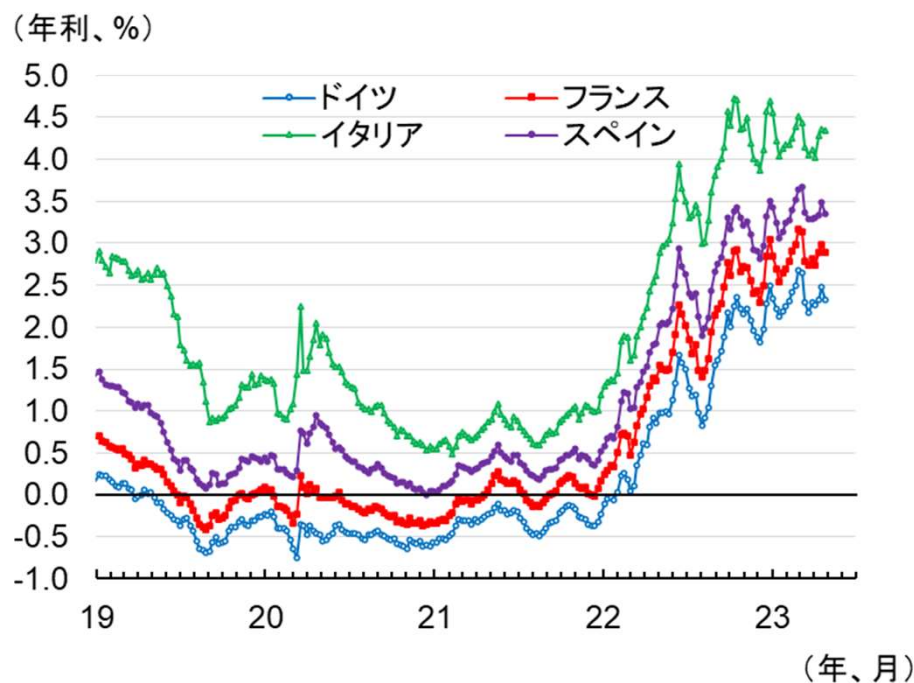
主な決定事項	内容
政策金利	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各政策金利を0.25%ずつ引き上げ</li> <li>・貸出ファシリティ金利 3.75%→<b>4.00%</b></li> <li>・主要リファイナンス・オペ金利 3.50%→<b>3.75%</b></li> <li>・預金ファシリティ金利 3.00%→<b>3.25%</b></li> </ul>
資産購入の再投資政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>■資産購入プログラム(APP)</li> <li>・<b>3月から6月まで月150億ユーロのピッチで保有資産を削減</b></li> <li>・<b>6月で再投資を終了</b></li> <li>■パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)</li> <li>・再投資は2024年末で終了</li> <li>・各国中銀の出資比率に応じた資産購入などを適用せず、柔軟な購入を行う</li> </ul>
市場分断防止策(TPI)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■TPIの適用条件</li> <li>・EUが定める財政ルールへの順守</li> <li>・健全なマクロ経済運営(過剰な経常赤字の是正など)</li> <li>■TPIの具体的な手段</li> <li>・流通市場での国債購入、金額は無制限</li> <li>・購入対象資産は国債が中心、社債も視野、満期1~10年</li> <li>・状況が改善すれば終了</li> <li>・経済の基礎的条件に基づく金利上昇には適用せず</li> </ul>

(出所) ECB

## ユーロ圏景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

4月のユーロ圏主要国の長期金利は上昇した。米国発の金融不安の流れが落ち着き、過度な悲観が和らいで国債が売られたことが、金利の上昇につながった。他方で、4月のユーロ圏の株価は上昇した。好決算が好感され、株価は上昇した。

### 長期金利



(出所) ECB

### 株価 (Eurostoxx50)



(出所) STOXX



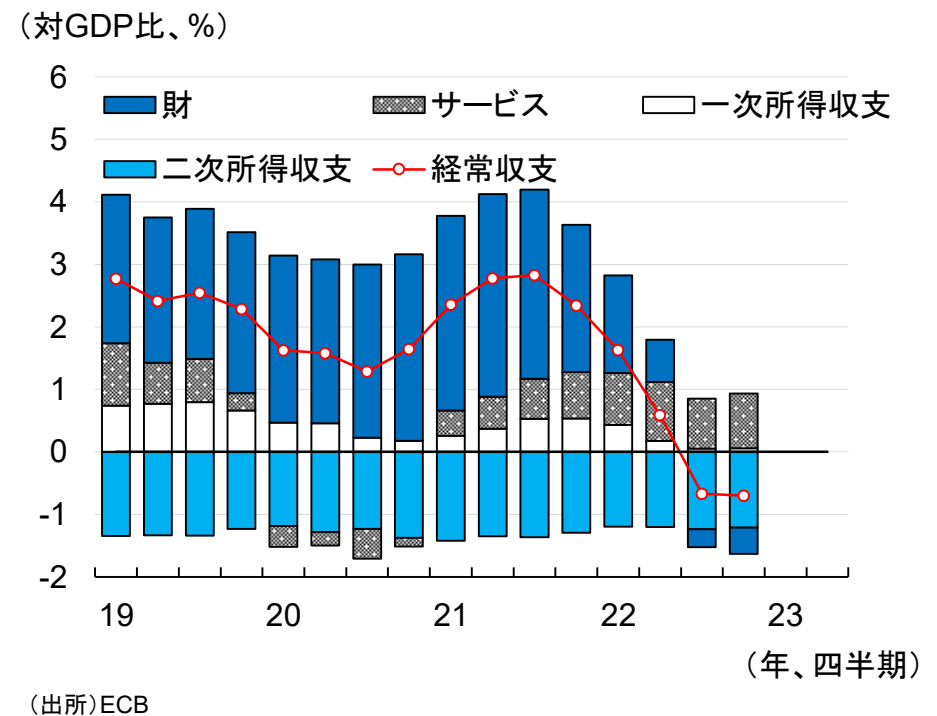
## ユーロ圏景気概況⑧ ユーロは対ドル・対円で上昇

4月のユーロ相場は対ドル・対円で上昇。対ドルでは、欧米の物価の方向感の差（欧州は高止まり、米国はデスインフレーション）が意識され、ユーロ高が進んだ。対円では、植田日銀の緩和姿勢が確認されたことから、ユーロ高が進んだ。国際収支は経常収支が赤字に転落しており、実需面からのユーロ買い圧力は弱まっている。

ユーロ相場



国際収支

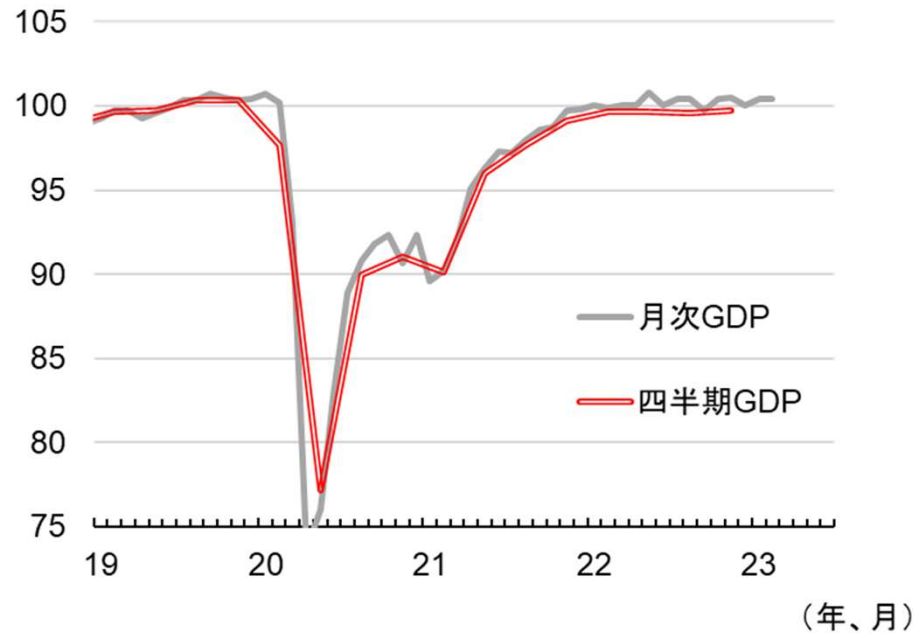


## 英国景気概況① 景気は足踏みしている

英国の2022年10-12月期の実質GDP(確報値)は前期比+0.1%になった。主要な需要項目の動きを確認すると、輸出が減少したほか、個人消費と設備投資が横ばいとなった。一方、2月の月次実質GDPは前月比横ばいにとどまり、均した動きも足踏み。

### 実質GDP

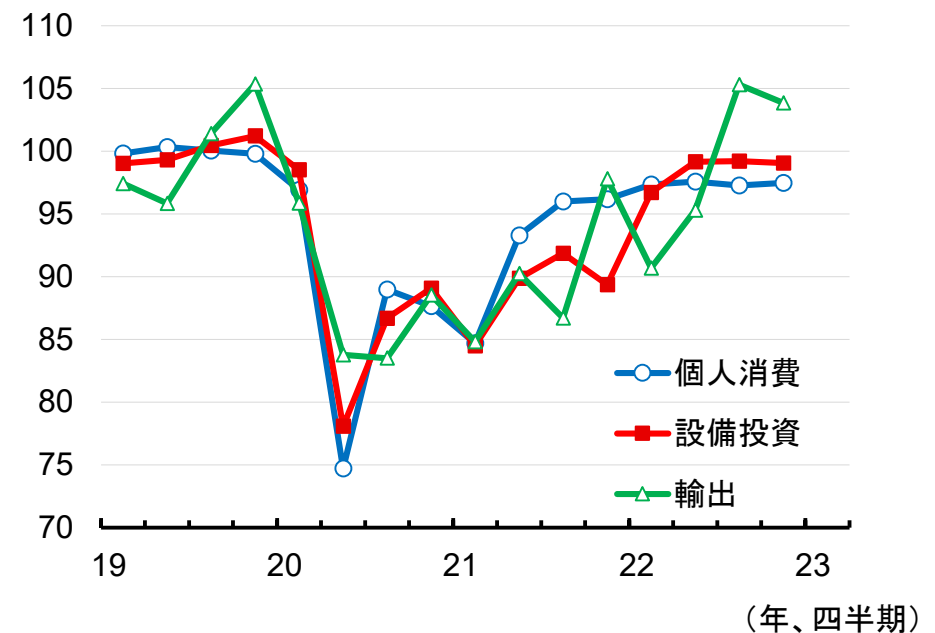
(2019年=100、季調済)



(出所)英国立統計局(ONS)

### 主要な需要項目

(2019年=100、季調済)

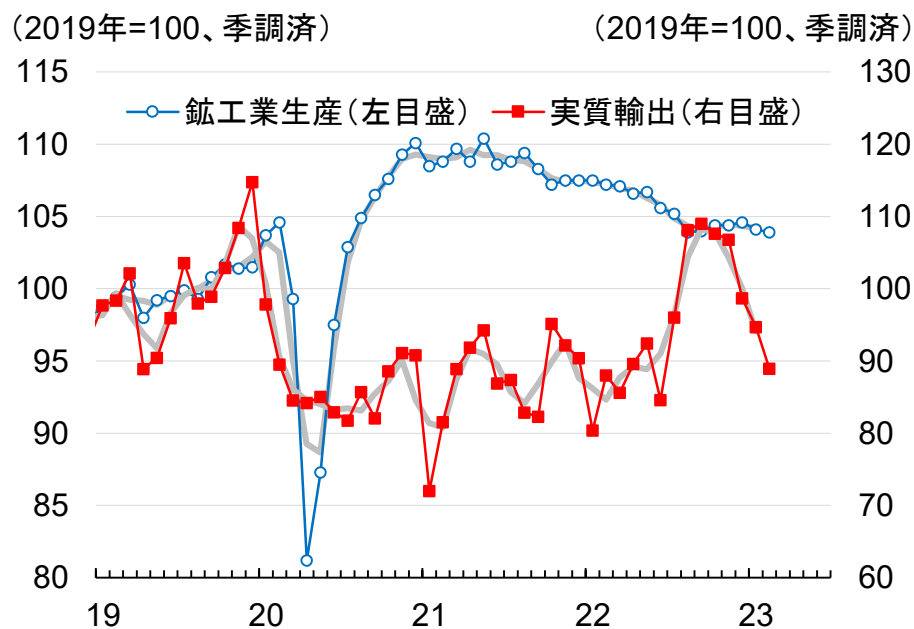


(出所)ONS

## 英国景気概況② 生産は減少

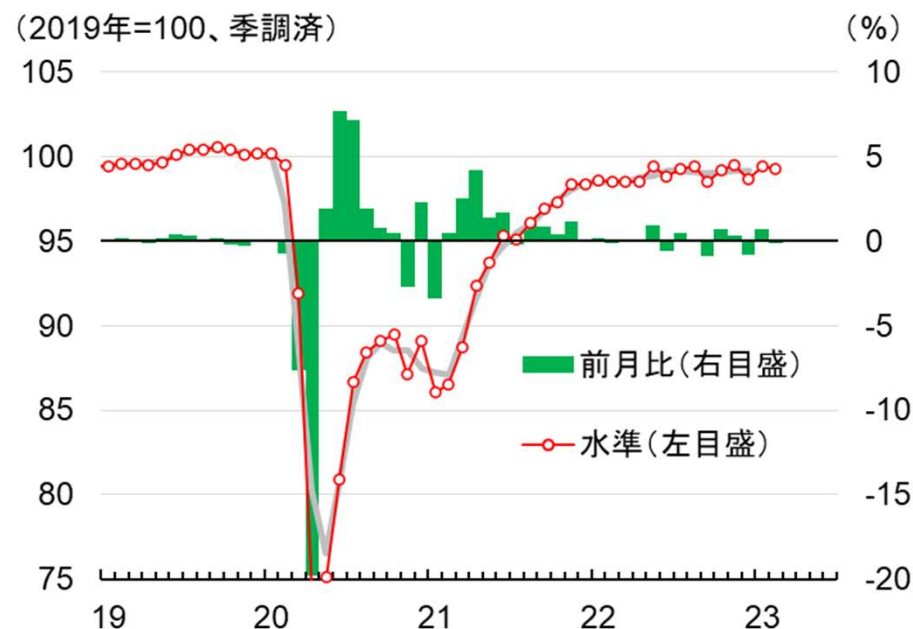
英国の2月の鉱工業生産は前月比▲0.2%と減少が続き、均した動きも下向き。また同月の実質輸出は同▲6.1%と5ヶ月連続で減少。反面で、同月のサービス生産は前月比▲0.1%と再び減少、均した動きは横ばい。

### 生産と輸出



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS

### サービス業生産



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS

## 英国景気概況③ 消費は横ばい

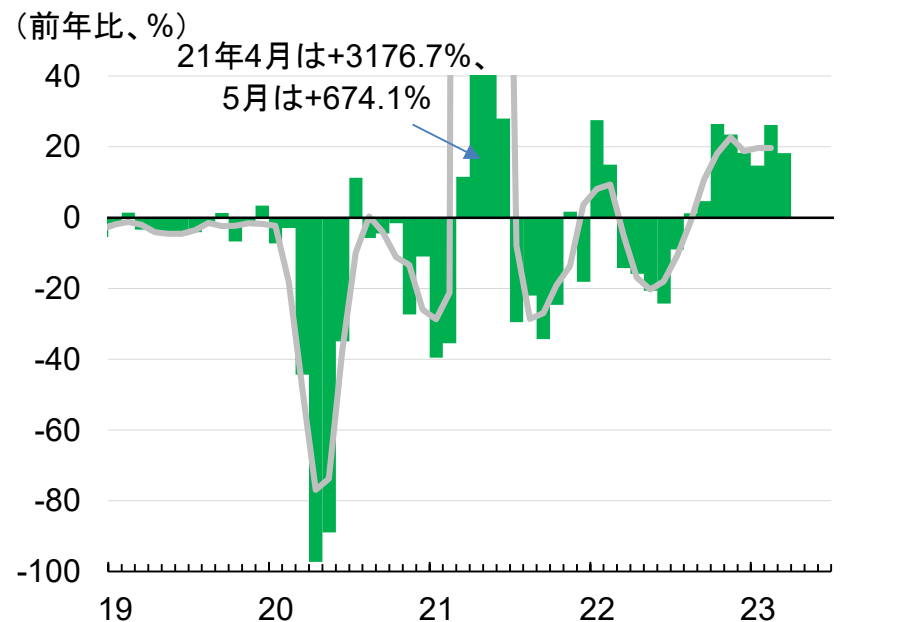
英国の3月の小売数量(除く石油)は前月比▲1.0%と減少に転じたが、均した動きは横ばい。一方で、同月の新車販売台数(乗用車)は前年比+18.2%と前月(+26.2%)よりも増勢が減速。均した動きは前年比2割増のペースが定着し、市場規模は年間150万台レベルにまで回復。

### 小売数量(除く石油)



(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) ONS (年、月)

### 新車販売台数(乗用車)

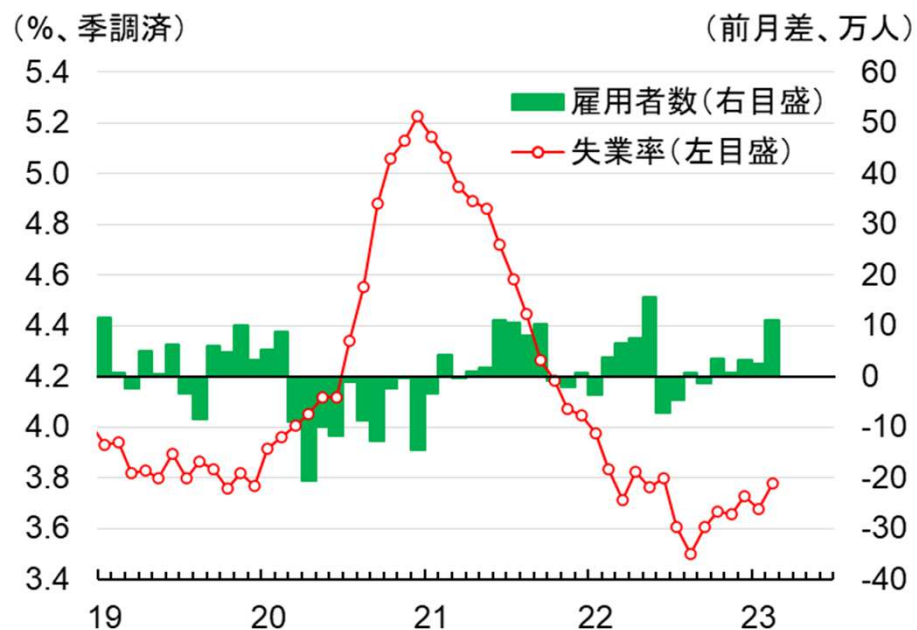


(注) 灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所) ONS (年、月)

## 英国景気概況④ 雇用は改善

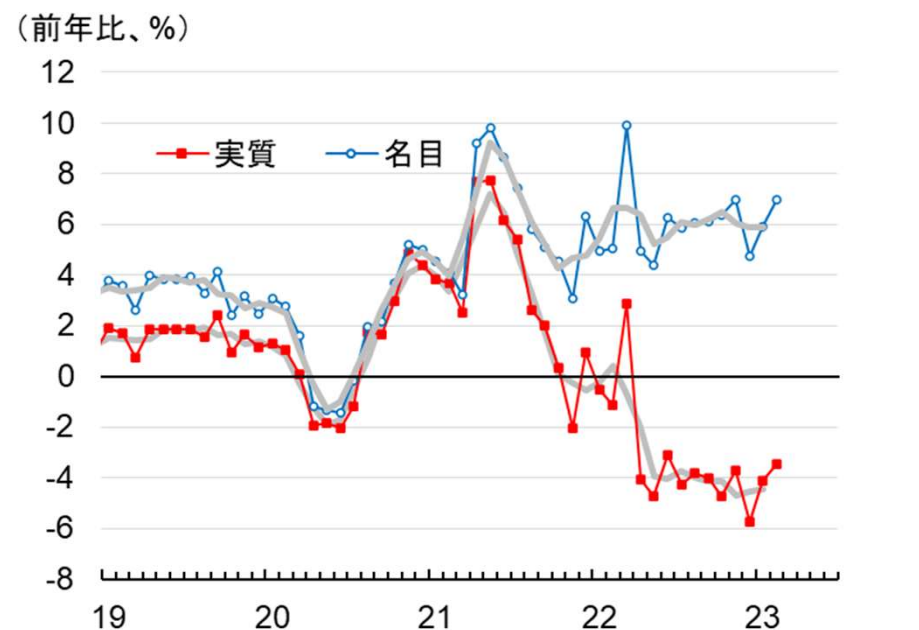
英国の2月の雇用統計(3ヶ月後方移動平均)では、失業率が3.8%と前月(3.7%)からわずかに上昇も、雇用者数は前月比11.1万人増と回復が加速し、雇用は改善と判断。均した賃金の動きは名目ベースだと前年比6%前後のプラス幅が定着も、消費者物価で実質化した実質ベースでは減少幅が5%近くまで達した。

### 雇用統計



(注)3ヶ月間の平均値  
(出所)ONS

### 平均賃金(週給)

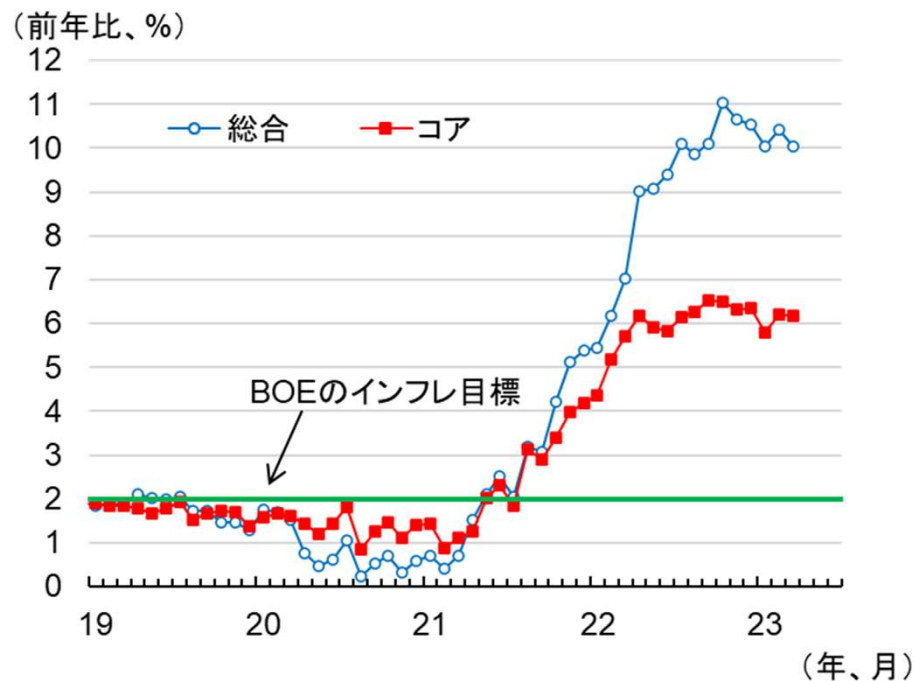


(注)灰色線は3ヶ月移動平均  
(出所)ONS

## 英国景気概況⑤ ディスインフレが停滞

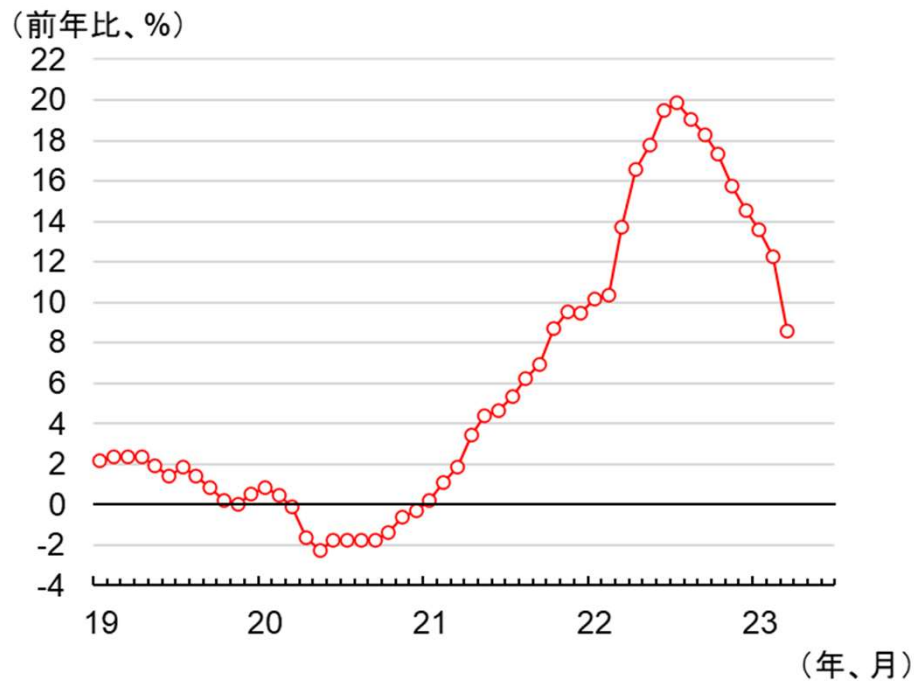
英国の3月の消費者物価は総合ベースで前年比+10.1%と前月(10.4%)から上昇が減速。また変動が激しい項目を除いたコアベースも同+6.2%と前月と同水準にとどまり、ディスインフレが停滞。消費者物価の先行指標となる生産者物価は3月時点で同+8.6%と、8ヶ月連続で伸び率が低下した。

### 消費者物価



(出所)ONS

### 生産者物価(投入価格、除く関税)

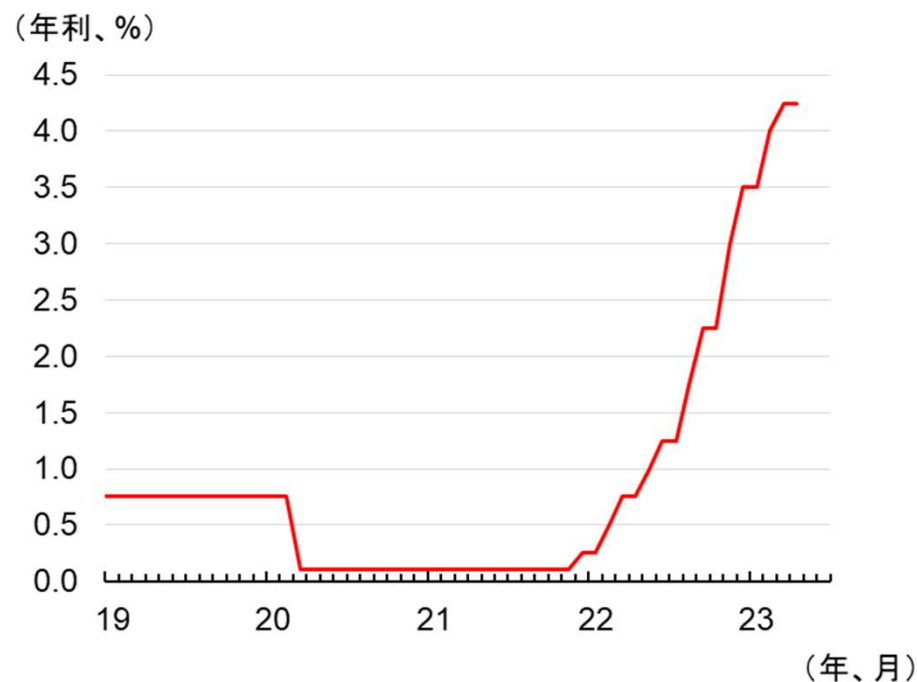


(出所)ONS

## 英国景気概況⑥ BOEは5月委員会で追加利上げの見通し

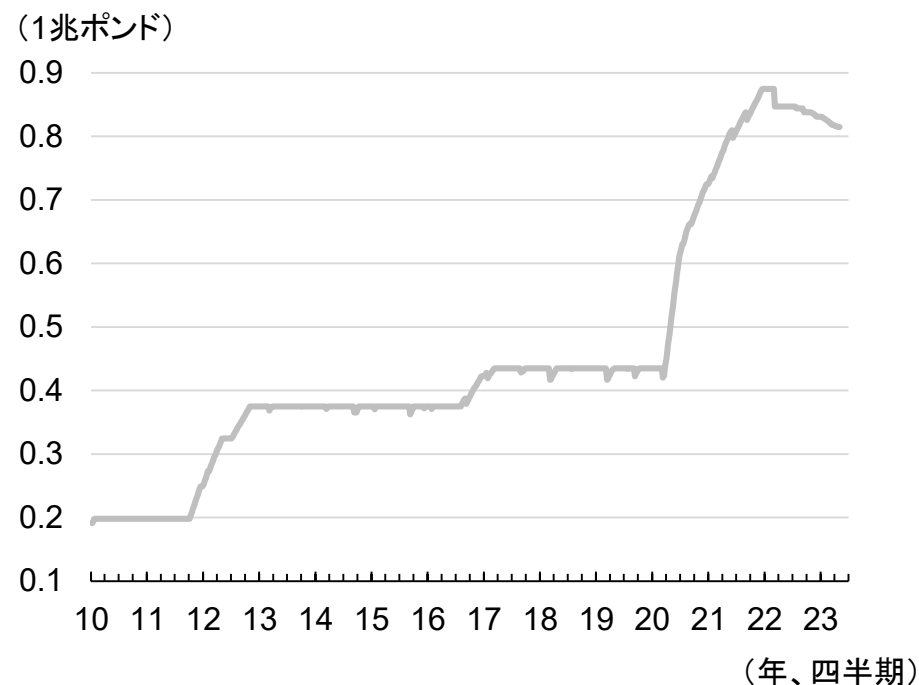
イングランド銀行(BOE)は5月11日に金融政策委員会(MPC)を開催する予定。その際、政策金利(バンクレート)を0.25%引き上げ、年4.5%とする見込み。BOEは2022年11月から保有国債の市中売却を開始しており、国債の保有高は徐々に減少している。5月MPC後には6月22日にMPCを予定している。

### 政策金利(バンクレート)



(出所)イングランド銀行(BOE)

### 英中銀の国債保有高

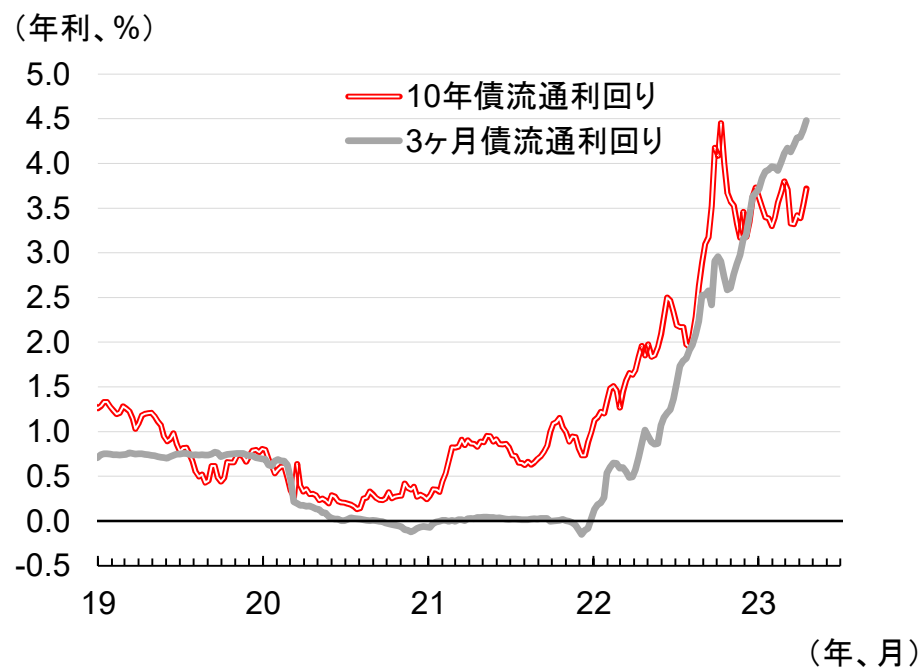


(出所)BOE

## 英国景気概況⑦ 金利は上昇、株価は上昇

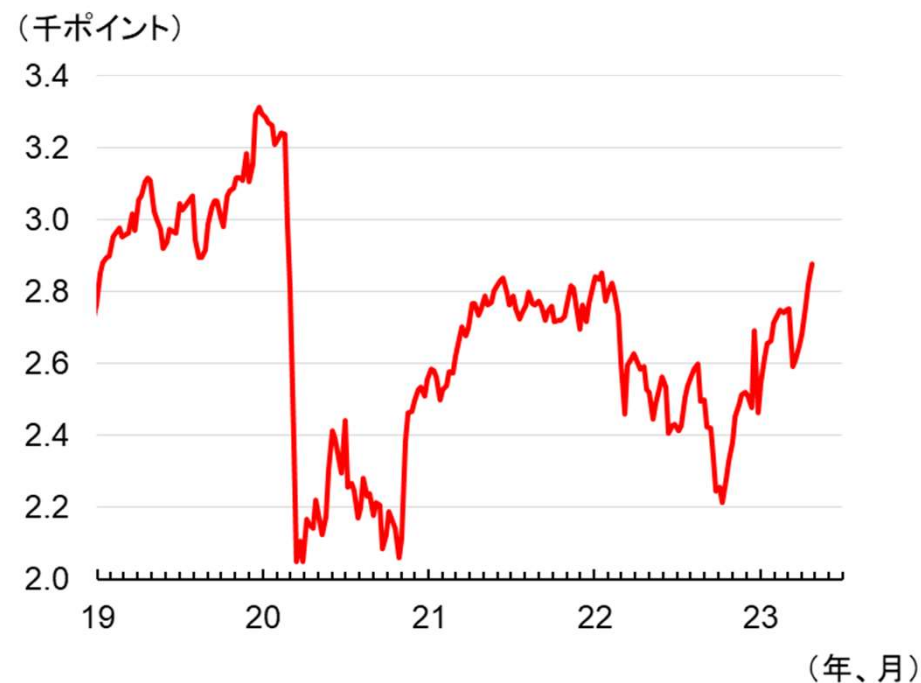
4月の英国の長期金利は上昇した。米国発の金融不安の流れが落ち着き、過度な悲観が和らいで国債が売られたことが、金利の上昇につながった。他方で、4月の英国の株価は上昇した。好決算が好感され、株価は上昇した。

### 金利



(出所)BOE

### 株価 (FT30指数)



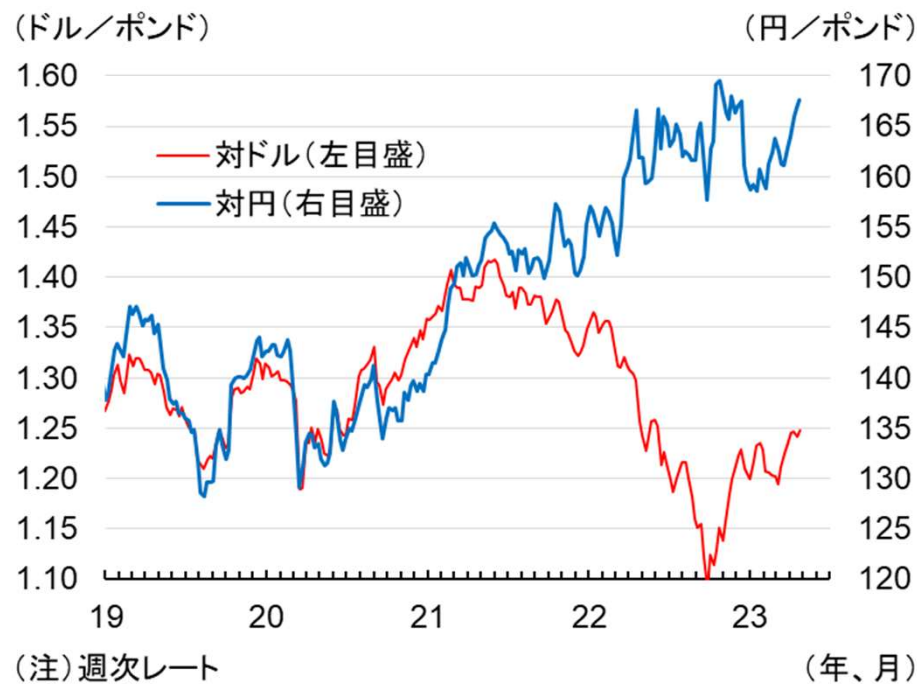
(出所)BOE



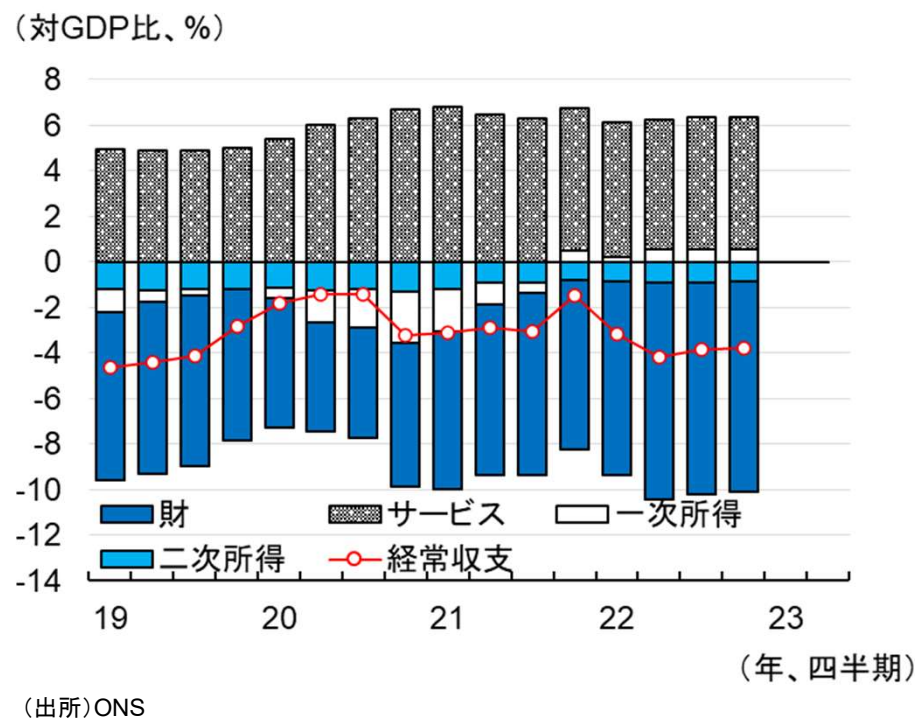
## 英国景気概況⑧ ポンドは対ドル・対円で上昇

4月のポンド相場は対ドル・対円で上昇。対ドルでは、欧米の物価の方向感の差（欧州は高止まり、米国はデイスインフレーション）が意識され、ポンド高が進んだ。対円では、植田日銀の緩和姿勢が確認されたことから、ポンド高が進んだ。国際収支を確認すると、経常収支の赤字幅は高止まりしており、実需面からのポンド買い圧力は弱いままである。

### ポンド相場



### 国際収支



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 土田陽介 TEL:03-6733-1628 E-mail:[chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp)

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡ください